

事業名	入所施設等指導費			調書番号	29
細事業名	施設入所児童里親体験事業費	財務コード	078002		
担当部課室	福祉保健 部 子育て支援 課 児童養護 担当 (内線)	3156			

事業の概要

実施期間	始期 H9 年度 ~ 終期 年度			
実施主体	県(直営)			
目的	<table border="1"> <tr> <td>だれ(何)を対象に 児童養護施設等入所児童</td> <td>その対象をどのような状態にして 里親家庭で宿泊等の体験ができる</td> <td>結果、何に結びつけるのか 児童の社会体験の場の提供、里親制度の普及と里親委託率の向上</td> </tr> </table>	だれ(何)を対象に 児童養護施設等入所児童	その対象をどのような状態にして 里親家庭で宿泊等の体験ができる	結果、何に結びつけるのか 児童の社会体験の場の提供、里親制度の普及と里親委託率の向上
だれ(何)を対象に 児童養護施設等入所児童	その対象をどのような状態にして 里親家庭で宿泊等の体験ができる	結果、何に結びつけるのか 児童の社会体験の場の提供、里親制度の普及と里親委託率の向上		
内容	<p>事業の目的 施設入所児童に家庭的な暖かい雰囲気味わう機会を設けることにより、社会体験を学習する場を提供するとともに、里親制度の啓蒙を図り児童福祉の向上をさせることを目的とする。</p> <p>事業内容 夏休みや冬休み、週末等を利用し一時帰宅が困難な児童に対し、里親に児童を受託する。(国補事業)</p> <p>平成27年度実績 ・利用述べ日数:189日 ・利用述べ児童数:69人</p>			

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
活動指標	利用児童延べ人数	目標	60	70	70	70	70	80	80
		実績(見込)	68	67	71	92	69	80	
		達成率	113.3	95.7	101.4	131.4	98.6		
		達成区分	b	b	b	a	b		
成果指標	複数回利用児童数	目標	34	35	35	34	19	31	31
		実績(見込)	21	21	23	24	17	22	
		達成率	61.8	60.0	65.7	70.6	89.5		
		達成区分	c	c	c	c	b		
決算(予算) 単位:千円		402	538	553	573	460	662	660	

事業の評価(平成27年度の業績評価)

活動指標	b	評価	保護者からの同意が得られないため、事業が利用できない児童も増えているなか、年間で複数回利用している児童の割合は徐々に増加しており、里親との関係性が作られていると考えられ、意図した成果を上げている。
成果指標	b		

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

見直しの必要性(平成29年度に向けた改善等の考え方)

県関与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い	<input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる	<input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input checked="" type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input checked="" type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input type="checkbox"/> その他		
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能	<input checked="" type="checkbox"/> 成果向上が可能	<input type="checkbox"/> 成果向上は余り望めない
	説明	利用児童数が拡大することで、施設児童の社会体験の提供と里親委託率の増加に繋がる。		
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある	<input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> その他(児童相談所の業務として里親措置へ変更していくためにも事業を積極的に活用していく必要がある)		
その他	説明			
見直しの必要性	有	現在、児童養護施設の児童を中心に実施しているため、里親への措置変更を視野に入れた乳児院入所児童の利用数を増やしていく必要がある。		

見直しの方向(平成29年度当初予算等での対応状況)

実施方法等の変更	説明	児童養護施設入所児童の利用が多いので、乳児院入所児童の積極的な利用を促していく。
----------	----	--

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しが無い場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。